

MiTA

2012/11/3

Vol. **46**

水島ポートニュース

Mizushima International Trade Association



特集

水島港開港 50周年記念行事開催 ～みんなで築こう水島港の未来!～

Contents

- ・MITAの活動を振り返って
(MITA会長 石井正弘岡山県知事)
- ・水島港港湾計画の一部変更について
- ・水島港開港50周年記念行事について
- ・水島港見学会について
- ・水島港の航行環境改善について
- ・MITA活動報告(国への要望・総会)

MITAの活動を振り返って

水島港インターナショナルトレード協議会会長

岡山県知事 石井 正弘



晩秋の候、会員の皆様方におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。この度、水島港インターナショナルトレード協議会(MITA)会長を退任するに当たり、一言「あいさつ」を申し上げます。

私が知事に就任したのは平成8年11月、MITAを設立したのは平成9年3月であり、MITAとは共に今日まで歩んで来たと言っても過言ではありません。

振り返ってみますと、MITAを設立したのは、コンテナターミナルにおける大型岸壁の整備拡充、港湾機能の強化などにより拠点性の増進を図り、外貿コンテナ貨物量の増加による定期航路の増便や新規航路開拓の要請に因應するためであり、FAZ地域の指定と特定重要港湾への昇格が一つの目標でありました。FAZ地域の指定は平成13年4月に、また、悲願とされた特定重要港湾への昇格については、対アジア国際輸送拠点としての重要性が認められ、平成15年4月に実現しました。

外貿定期コンテナ航路については、私もMITAの団長として海外ポートセールスに積極的に参加するなど、その利用促進に皆様とともに努めてきたところであり、平成7年9月に最初の航路が開設されて以来、玉島ハーバーアイランドの国際コンテナターミナルの施設整備などとの相乗効果により、現在では3カ国1地域に11航路週16便が運行されるまでになっております。

FAZの指定や特定重要港湾への昇格がかない、今日の発展がありますのも、MITAの顧問や会員の皆様方の要望活動などによるご尽力のたまものと感謝申し上げます。

今年、開港50周年という記念すべき節目の年を迎えた水島港は、鉄鋼、石油精製、石油化学をはじめ、自動車、穀物など、多様な企業が立地する水島臨海工業地帯の海の玄関口として、我が国を代表する国際貿易港の一つに成長し、今後も更なる発展が期待されております。MITAを中心とした官民が力を合わせていけば、必ずやその期待に応えられるものと考えております。

港湾の整備は産業発展の礎であり、私も特に力を注いでまいりました。中でも物流拠点である玉島地区において、玉島ハーバーアイランドの整備を積極的に進め、現在では流通業、製造業など多くの企業が立地しております。

そして、更なる発展を見据え、現在生産拠点の水島地区と物流拠点の玉島地区を結ぶ新高梁川橋梁の整備が国により進められています。玉島ハーバーアイランドにある水島港国際コンテナターミナルでは、増加するコンテナ貨物に対応するため、水深12m耐震強化岸壁の整備が本年度中の完成を目指して進められており、玉島西航路についても拡幅整備が進められております。

水島港では、ハード面のみならずソフト面の取り組みも積極的に行っており、平成16年には構造改革特区制度を活用し、水島港国際コンテナターミナルにおいて、全国に先駆けて民間事業者が長期一体貸し付けを開始しました。利用者のための柔軟な料金設定、民の視点による創意工夫を生かした効率的な管理運営にも取り組み、平成23年のコンテナ取扱貨物量が18万TEUと過去最高を記録す

るなど成果をあげております。

現在、水島港では昨年の港湾法改正に伴う港湾運営会社制度の導入に向け、今年7月に港湾計画の一部変更を行い、効率的な運営を特に促進する区域を拡大しております。

また、昨年5月には、食料・エネルギーなど資源の安定供給を目指した国際バルク戦略港湾として、穀物では単独で、鉄鉱石では広島県東部に位置する福山港と共同で選定され、県、市、国および関係企業と協働で国際バルク戦略港湾育成プログラムを作成し、政策実現に向け取り組んでいるところです。

水島港については、平成24年4月にスタートした第3次おかやま夢づくりプランにおいても、水島コンビナートをはじめとした県内企業などの国際競争力を支える国際物流・産業拠点港湾としてさらに機能強化し、一層の発展を目指すこととしております。

当協議会においても水島港をより一層魅力ある港に発展させるため、引き続き航路誘致や利用促進のためのポートセールス活動に、官民一体となって取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、水島港へのご支援、ご協力をいただきました会員の皆様、改めて感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます、ごあいさつといたします。

将来の発展のため水島港港湾計画の一部が変更されました!!

水島港港湾計画は、水島港の将来像を示す重要な計画です。

平成24年7月5日、国の「交通政策審議会第49回港湾分科会」が開催され、この水島港港湾計画の一部変更が了承されました。

今回の一部変更により水島港が目指すものは大きく2つあり、1つ目は昨年5月に選定された国際バルク戦略港湾の施策により、穀物を取扱う民間企業2社の専用埠頭に通じる航路・泊地等の水深を12mから14mへ増深し、2015年までにパナマックス船の満載状態での入港を可能にしようとするものです。これが実現すると、現在1万トン程度減載しての入港を強いられるパナマックス船が満載で入港可能となり、輸送費の大幅なコストダウンが図られ、岡山県における国際バルク戦略港湾の目的である「中国・四国地域および近畿西部地域の畜産業の振興と食料の安定

供給を下支えする。」ことを目指すものです。

2つ目は、昨年4月に港湾法が改正され、港湾運営会社制度を導入することができるようになりました。この制度は、本県が先進的に取り組んで来た「水島港国際物流・産業特区」による長期一体貸付が評価され制度化されたものであり、港湾管理者が港湾運営会社を指定することにより、これまでのような行政が中心となった港湾運営から、民の視点を取り入れた積極的な集荷活動や営業活動を展開するなど、戦略的な港湾運営を目指すものです。

また、今回の一部変更では港湾運営会社制度を導入する区域として既に民間主導の運営体制が図られている国際コンテナターミナルに玉島ハーバーアイランド4号埠頭を加えた埠頭群を「効率的な運営を特に促進する区域」と定めたものです。



水島港開港50周年記念行事が 開催される



国際拠点港湾水島港は、昭和37年に水島臨海工業地帯の玄関口として世界に門戸を開いてから、今年で50周年を迎えました。この節目に水島港発展の足跡について、広く県民・市民に理解を深めてもらうとともに、今後の発展にむけて協力を得るため、水島港開港50周年記念行事実行委員会（岡山県、倉敷市、港湾関係機関、立地企業等で構成）の主催により、倉敷市環境交流スクエア（倉敷市水島東千鳥町）を主会場に、8月3日（金）から5日（日）にかけて水島港開港50周年記念行事が多くの参加者を迎え開催されました。MITA会員の皆様には実行委員会への参画、港・貿易・産業展への出展等々、多くのご支援ご協力をいただきました。ありがとうございました。

オープニングセレモニー（式典）では、はじまりにあたり地元の水島青少年少女合唱団の子どもたちが「われは海の子」などの海にちなんだ3曲を清らかな歌声で聞かせてくれました。会場は和やかな雰囲気になりました。

式では、石井正弘岡山県知事（MITA会長）が、水島臨海工業地帯とともに発展してきた水島港の開港から50周年を振り返るとともに、これからは水島ハーバーアイランドをはじめとした港湾機能の強化を図り、産業の発展につなげていくと挨拶されました。また、伊東香織倉敷市長（MITA副会長）が、三木行治岡山県知事が開港されて以来、石井知事をはじめ歴代の県知事のご尽力により、今や250社を超える企業が集積した水島港を、地域、企業が一体となってさらに発展させていきたいと思います。次に、中国遼寧省大連市から、お祝いに駆けつけてくださった大連港集団有限

大連訪問団が 水島港を訪問しました。

水島港と国際定期コンテナ航路を持つ中国遼寧省大連市より、大連港集団有限公司の訪問団が、水島港開港50周年を祝福するため来岡されました。

訪問団は、大連港集団有限公司 吳国忠 副総経理、中国共産党大連市委員会政策研究室 張克主任、大連港集団有限公司 通訳 李麗さんの3名で、8月2日に来岡され、8月4日まで岡山に滞在されました。

在岡中、8月3日には水島港開港50周年記念行事に出席し、オープニングセレモニーでは、団長の吳副総経理が石井知事、伊東市長、高橋選手とともに、大連市の花である庚申（こうしん）バラを記念植樹しました。

その後、先進企業視察として、MITA会員でもある水島地区のJFEスチール ㈱西日本製鉄所と玉島地区のナカシマプロペラ ㈱玉島工場を訪問し、企業説明の後、施設の見学を行いました。

また、同日MITA主催により、大連訪問団歓迎レセプションを、MITA関係者など大連港とつながりのある方々22名の出席により岡山プラザホテルにおいて行いました。

翌日8月4日訪問団は、水島港湾事務所において水島港の概要について伊浪所長などから説明を受けた後、船上から水島港の視察を行いました。その後、水島国際物流センターにおいて、水島国際コンテナターミナルの視察を行い、今後ともより深い交流をして行きたいと言われました。

公司吳国忠副総経理をはじめとする訪問団が紹介されました。



また、この開港50周年を記念して、小学生を対象に募集した絵画展の応募作品の中から、優秀な作品について石井知事と伊東倉敷市長からそれぞれ表彰状と記念品が授与されました。

続いて、地元水島出身でフィギュアスケート選手として世界で活躍する、バンクーバーオリンピック銅メダリストの高橋大輔選手が応援に駆けつけ、地元の水島港の発展は大変うれしい、今後も同じ世界を相手にしている者として、皆さんに勇気を与えられるようにがんばって行きたいと水島港への応援メッセージをいただきました。その後、記念植樹に移り、石井知事、伊東倉敷市長、高橋大輔選手をはじめ、来賓の方々により記念植樹が行われました。記念植樹されたのは、水島港の利用の多い5カ国の代表的な11種類の樹木であり、秋頃に水島港の緑地等に移植されます。

麻薬探知犬の デモンストラーション

麻薬探知犬のデモンストラーションは、神戸税関水島税関支署及び麻薬探知犬管理センターの協力により、環境交流スクエア芝生広場で開催中3日間にわたり午前と午後合計6回行われました。麻薬探知犬は人間の数万倍ともいわれる鋭い嗅覚により、麻薬のわずかな匂いでも見つけたことが出来る優れた能力を持った犬のことです。会場では訓練用の麻薬の匂いの付いたダミーと呼ばれるタオルを、いくつかの同じ形の段ボール箱の中から間違うことなく発見し、多くの方から拍手を浴びていました。こんなすこい麻薬探知犬ですが、麻薬の匂いを見つけた時のご褒美は「ドンドラー」と呼ばれる税関職員のパアとダミーと一緒に遊ぶことです。麻薬探知犬は「ドンドラー」と遊びたい一心で麻薬の匂いを探すのだそうで、「ドンドラー」も麻薬の匂いを見つけた際は麻薬探知犬と本気で遊んであげるそうです。



袋の中からダミーのタオルを探している様子

巡視艇体験航海

水島海上保安部では、広く市民の方々に海上保安庁を理解してもらうため、水島港開港50周年記念行事の協賛行事として、水島海上保安部所属の35メートル型巡視艇「みずなみ」による体験航海が開催されました。

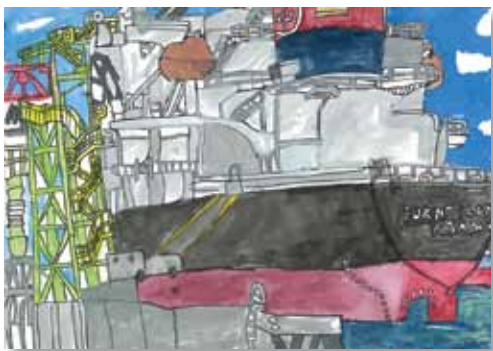
体験航海は、8月4日（土）に3回にわたり水島港から瀬戸大橋付近を回り水島港に帰る約1時間20分のコースで行われ、事前に応募のあった親子連れなど115名が参加しました。

参加された親子連れからは、瀬戸大橋を海から見上げると高くてでっかいな、また機会があったら乗りたいなどの声が聞かれました。

その他にも暑い中ではありましたが、「ももっち・うらっち（岡山県）」「カスタムくん（神戸税関）」「うみまる（海上保安庁）」などのキャラクター達が、倉敷小町とともに会場を盛り上げてくれました。大変お疲れさまでした。



巡視艇「みずなみ」の船上にて



最優秀賞 古賀祐次郎さんの作品



歓迎レセプション



石井知事との面談

水島港開港50周年記念 小学生絵画展

小学生絵画展は、協賛行事の一環として、水島港に興味のある小学生に、水島港・水島コンビナート・玉島ハーバーアイランドに関する景色や、船、働く人の様子をテーマに水島港の絵を募集したものです。応募作品126点の中から、最優秀賞は石井知事から、優秀賞は伊東倉敷市長からそれぞれ表彰されました。

最優秀賞は中庄小学校5年古賀祐次郎さん、優秀賞は第一福田小学校5年浅原優花さんと連島東小学校4年秋山夏海さんです。

開港50周年 海と陸から水島港見学会を開催！

「最先端のものづくりと水島港の関わり」について理解を深めてもらおうと毎年MITAが開催している水島港見学会に、市内の小学校4年生以上の21組39人が参加し、水島港開港50周年記念行事にあわせ8月3日（金）に開催しました。

今回はバス及びチャーター船による陸と海からの見学会で、コースは水島港国際コンテナターミナルを運営する水島港国際物流センターで港の仕組み、役割について説明を受けた後、屋上から荷役作業などを見学、その後造成が進む玉島ハーバアイランドをバス

で進み、E地区よりチャーター船に乗船、海上よりコンテナターミナルや新高梁川橋梁、水島コンビナートを見学しました。

今回は、高梁川の下流に建設が進む新高梁川橋梁の建設現場を宇野港湾事務所の職員の方から橋脚の建設の説明を受けながら見学、杭を打ち込む「起重機船」などを間近に見ることができ、また、水島地区で降船後「水島港開港50周年記念港・貿易・産業展」へ立ち寄り、パネル展などを見学、水島港の50年間の発展の歴史に思いを巡らせました。

参加者からは「水島港の様子、役割を初めて知りました。」「海から見たコンビナートはまた格別なものでした。」「などの感想が寄せられ、普段あまり目にするこの新しい港の機能や設備、水島コンビナートを陸と海から見ることです。新しい発見があったようです。



水島港国際物流センター屋上から、国際コンテナターミナルや、コンテナ船の荷役作業を見学。対岸には、広大な敷地を有する銑鋼一貫製鉄所、JFEスチールを望む。



杭を打ち込む「起重機船」と警戒船。高梁川の下流に建設が進む新高梁川橋梁の水島側の橋脚の1基の建設の様子を、船中からこんなに間近で見学。



見学会の感想 / 抜粋

水島港が発展しているのにびっくり。水島港から世界に向けてのコンテナ外国船の多さ、設備の充実、橋の建設と、暗い経済の中、希望の水島だと思いました。

普段、陸の道路側から眺めているコンビナート群も、海から、またその地区の中から見学すると、改めてすごい施設がそろっていることに感心しました。これからも、さらに発展していくことで「倉敷」「水島」の名前が世界に広く知られるようになったらいいと思います。貴重な体験を親子でできてうれしかったです。

水島港に入港する大型船の航行環境の改善が図られる!!

平成 24 年 7 月 1 日から「関税法」と、「とん税法及び特別とん税法」の基本通達が改正され、昨年度国から選定や指定を受けた国際バルク戦略港湾と地域活性化総合特区において求めている規制緩和のうち、一定の要件の下において、入港待ち（錨泊）をする際の不開港出入許可手数料が免除されることとなりました。また併せて、積荷の準備等でやむを得ず入港後一旦水島港の外に出て錨泊した後、再度入港する際のとん税・特別とん税が非課税となることになりました。

そこで、この改善による効果や意義、具体的な内容について、直接携わっている関係企業の方にお話しをお聞きしました。

と山本哲生さんは、「関税法では外国貿易船は税関長の許可を受けなければ不開港（※1）に入港できず、積荷の準備等の都合でやむを得ず税関長の許可を受けて一旦水島港に近接する不開港に入港（錨泊）する場合でも、不開港出入許可手数料がかかりません。また、一旦水島港に入港しと

ん税・特別とん税を支払った後、積み荷等の待ち合わせのためやむを得ず水島港を一旦出港して 24 時間以上経過してから再度水島港へ入港する外国貿易船には 2 度目のとん税・特別とん税がかかります。船のサイズにもよりますが、例えば全長 200m で純トン数が 2 万トンの貨物船の場合ですと、手数料やとん税等で併せて 144 万円、さらに燃料など船舶の航行に必要な費用も企業の負担となります。そしてこれは最終的にコストとして製品に転嫁され、水島に立地する企業としては他

の港と比べてその分競争力の減となつてしまうんです。しかし、今回の改正でそのような費用負担が軽減されれば、我々も大変助かるし負担を敬遠していた企業が水島港を積極的に利用するケースが増えるのではないのでしょうか。」と話されています。

また、船主と荷主をつなぐ水島地区船舶代理店協議会会長の佐原さんは、「これは水島港に入港する多くの大型外国貿易船が持



旭化成ケミカルズ株式会社水島製造所
水島総務部水島総務グループ長
家本芳夫さん

旭化成ケミカルズ株式会社水島製造所
企画管理部企画管理グループ課長
山本哲生さん

つ悩みであり、実際には多くの場合手数料や税がかかることのないように、不自由航行や運営を余儀なくされているところです。今回のことは、原料の運搬などのバルク船からコンテナ貨物船まで船種を問わないものであり、今後効率的な運航による水島港への入港数の増加・取扱貨物量の増加につながるものです。」と期待を寄せられています。



水島地区船舶代理店協議会
会長
佐原聖三さん

※1：不開港とは、関税法上外国との通商・貿易を許可されていない開港域以外の港や一般海域。
※要件はケース毎に異なりますので、詳細については、神戸税関水島税関支署にご確認ください。

(TEL 086-448-3375)

MITA活動状況報告

MITA 国への要望活動を実施

MITAでは国土交通省に対し、平成24年度の要望活動を実施しました。8月1日、四柳要望団長（JFEスチール株）西日本製鉄所倉敷地区総務部長をはじめとした14名のMITA A要望団は、国土交通省中国地方整備局の魚住港湾空港部長他7名の幹部の方に出席いただき要望活動を実施しました。魚住港湾空港部長からは、本省へ来年度予算を要望するにあたり、港湾を利用している企業が集まったMITAのような団体からの声は非常に参考になる、今後も水島港の機能強化に向け、支援していきたい、とのコメントがありました。



中国地方整備局において要望中のMITA要望団

各要望項目について時間を取り詳しく説明をすることができました。また、加藤港湾局官房審議官、難波港湾局官房技術参事官等へは直接要望書を手渡し、水島港の機能強化と国際バルク戦略港湾の整備促進等について要望しました。

その後、衆議院、参議院議員会館において、MITA顧問である15名の国会議員の方を訪ね、その内9名の方には直接面会し要望をお伝えするとともに、今後のMITAに対する支援をお願いしました。

今後もMITAでは、水島港のさらなる発展のため要望活動を積極的に実施していきます。



山縣港湾局長に説明中のMITA要望団

MITA 総会報告



6月6日、第15回MITA総会をメルバルク岡山で開催し、総会には来賓、会員合わせて97名が出席しました。冒頭、MITA会長として壇上に立った石井岡山県知事は、今年水島港が開港して50年の節目にあたり、水島港のこれまでの発展について、MITAの顧問・会員の方々のご尽力に感謝し、昨年選定された国際バルク戦略港湾の計画実現と昨年の港湾法改正により導入された港湾運営会社制度の活用に向け、水島港の港湾計画を変更することを報告するとともに、水島港のさらなる機能強化及び国際競争力強化のため、新高梁川橋梁、水深12m岸壁等の一層の事業進捗や利用促進を図る必要があると挨拶しました。



開会挨拶をする石井知事

総会では、MITA副会長である岡山商工会議所連合会の岡崎会長が議長を務め、平成24年度役員・顧問の変更、平成23年度事業報告及び収支決算について、平成24年度事業計画案及び予算案についていずれも承認されました。

総会後、水島港開港50周年記念講演として日本貿易振興機構（JETRO）海外調査部国際経済研究課長の梶田朗（かじたあきら）氏に世界貿易において大きな話題となっているFTA（自由貿易協定）の最新動向について講演いただきました。

Cover Photo

今号の表紙

8月3日に開催された「水島港開港50周年記念オープニングセレモニー」の記念植樹の様子です。左から伊東倉敷市長、石井岡山県知事、大連訪問団団長 大連港集団有限公司 吳 国忠副総経済師、フィギュアスケート高橋大輔選手。